

地域発・防災ラジオドラマ グループ名「エフエムとおかまち」 タイトル 「キズナ」

証言者1：「最初の揺れで祖母を亡くしました…。優しい祖母でした…。」

証言者2：「家は全壊しました。地区全体が立入禁止区域なので、父と母の遺影を取りに行くことができません。立入禁止が解除されたら、父と母の遺影を取りに行きたい。」

証言者3：「二日間、家の下敷きになっていました。近所の人と自衛隊の皆さんに助けられました。」

ナレーション：「エフエムとおかまち、防災ラジオドラマ・キズナ」

静香（ナレーション）：「あの秋…大きな地震が海沿いの小さな街を襲った。台風が去り数日経った良く晴れた日の朝だった…。地震はまるで、ゴジラが暴れて去った後のように、多くの家を潰し、多くの人の命を奪った…。そして、被災した多くの人々は、避難所で様々な困難と戦うこととなった…。
私が支援員として、被災したコミュニティFM局に派遣されたのは、地震から一週間後だった…。私は隣町のコミュニティFM局のアナウンサー。被災したラジオ局に支援員として派遣されたのだが…。実際は電話番号しかなかった。それでも、災害情報を放送し、市民からの様々な情報に対応する忙しさの中では、それなりに重宝がられた。こんな時、大マスコミは被災した人々を助けてはくれない。被災した人々の悲痛な表情と壊れた建物を映し出すだけ…。地元のコミュニティFM局だけが、日々の給水情報、入浴情報、尋ね人や、いなくなったペット情報まで放送し続け、被災した人々を勇気づけていた。」

くラジオ局事務所く

小さく、防災情報のアナウンスが聴こえる。

静香、電話を受けている。

静香：「はい、明日の自衛隊のお風呂ですね。第一小学校グラウンドは午前中が女性です。午後は男性です。道の駅の駐車場は午前が身障者です。」

午後は女性で。…はい…。どういたしまして。」

静香電話を切る。

静香：「ふう…。」（ため息をつく）

加瀬：「静香さん、お疲れさん。」

静香：「あつ、加瀬さん…。大変ですね。非常事態だと、お風呂の案内や炊き出しの場所の案内まで、ラジオ局がするんですね。こんなの市役所の仕事ですよね。」

加瀬：「まあ、本当はそうなんだけど、市役所も目いっぱいだな。情報持つてるウチにまわしてくるワケよ。」

静香：「えっ！この電話って市役所がこっちに回してるんですか！？」

加瀬：「ああ…。」

静香：「ヒドイですね。」

加瀬：「非常時だから仕方ないよ。でも、こんな時だからこそ、市民のために頑張らないと…。静香さん、炊き出しに夕飯もらいに行くから手伝って。」

静香：「はい。」

静香ナレ：「このラジオ局は被災したのだが、奇跡的に電気は遮断されず放送を続けていた。」

く被災した街く

街を歩く静香と加瀬

静香：「加瀬さん…家がまるでゴジラに踏み潰されたみたい。」

加瀬：「この辺りは古い家が多いから、被害も大きかったんだ。」

静香：「あそこ、炊き出しやってますよ。」

加瀬：「あそこは民間ボランティアがやっている炊き出しだから遠慮しておこう。」

俺達は、自衛隊が炊き出ししている小学校に行こう。」

〈小学校〉

静香ナレ：「私達は夕食の配給を待つ二十名ほどの列の最後尾に並んだ。列は右と左の二列だった。」

自衛隊員A：「お疲れさまです！今日のメニューは自衛隊特性カレーです！」

自衛隊員B：「カレーライス以外にも、卵焼き、おしんこ、なめこの味噌汁、大根の煮付けもあります。」

静香：「自衛隊の若い隊員さん達元気良いですね。」

加瀬：「彼らの笑顔が、被災者の気持ちを和ませる。あっ一つ大盛りね。」

静香：「田中さんの分ですね。身体大きいですもんね。」

加瀬：「田中はさ、実家が全壊したんだ。」

静香：「えっ!?!」

加瀬：「幸い家族は皆無事だった。今は避難所に避難している。秋山は今年産まれたばかりの赤ちゃんを奥さんに預けて毎晩放送している。和子さんも保育園に通う子供二人、家に残して放送してる。こうなると放送局員も命をかけての放送だ。でも、この街には親を亡くした子供もいる。子供を亡くした親もいる。ラジオは大災害の前では無力かもしれないけど、傷ついた心を一時忘れさせたり、大マスコミができない地域の細かい情報を発信して、被災した市民を勇気づけることができる…。そう信じて僕達は放送を続けている。」

静香：「加瀬さん…。」

自衛隊員A：「すみません！こっちはなめこ汁がなくなりました。残った食材は右の列で配りますから、右の列の後ろについてももらえませんか!！」

静香ナレ：「私はマズイと思った。皆疲れている。被災者にとって温かな食事は何よりの楽しみ。ずっと並んで待っていたのに、順番直前で

また一番後ろに並べなんて…。海外だったら暴動ものだ。ここは日本だから暴動にはならないかもしれないがそれでも文句の一つも言うだろう。皆怒っているに違いない。しかし、皆静かに私達の後ろについた。」

自衛隊員A：「ありがとうございます。では配給を再開します！」

自衛隊員B：「木下さんは肉はダメなんですよね？カレーだと肉が入りますがいいですか？」

木下：「大丈夫。近所の子供にあげるから。ありがとう。」

自衛隊員A：「お疲れのようですね。ごはん沢山食べて元気出してくださいね。」

今井：「ありがとね。アンタ達のおかげで元気がでるよ。」

自衛隊員B：「もうちよつとです。もうちよつとで余震も落ちつきます。我々も栄養のある食事を毎日作るので、皆さん頑張ってください！」

あちらこちらから「ありがとう。」の声

静香：「加瀬さん…。これは…。」

加瀬：「絆だよ。」

静香：「…キズナですか…。」

加瀬：「そう絆だ。被災した者、支援するボランティアや自衛隊、警察、消防、様々な機関…。一緒に困難を乗り越えようとする気持ち、絆を生んでいるんだ。だから皆心から「ありがとう」って笑顔で言えるんだよ。人間、困難の中にあつてこそ、本当の感謝の気持ちや、思いやりを持てるものなのかもしれないね。」

静香ナレ：「私は生まれて初めて日本人を美しいと思った。この困難な状況下でも、人を思いやり、譲り合う心を持った日本人の姿を初めて見ることができた。本当の防災は、人と人との絆の深さかもしれない。」

自衛隊員B：「皆さん、まだまだ沢山あるので、遠慮せずに食べてくださいね！」

大勢：「ありがとう！！！」

END

作・演出

佐藤広樹

出演・・・

静香 役 水野美咲

加瀬 役 水落雅人

自衛隊員 A 役 高橋進一

自衛隊員 B 役 茂野裕之

証言者 1 役 江村敦子

証言者 2 役 高橋進一

証言者 3 役 井口淳

アナウンサー 役 佐藤広樹

木下 役 井口淳

今井 役 佐藤広樹

被災者 役 早見純子

高野綾子 竹内淳輝

作曲・演奏 水落雅人

音響・録音 佐藤広樹

制作 エフエムとおかまち